
益田宗年譜

1932年（昭和7年）

10月20日 東京に誕生する。

1951年（昭和26年）

4月 東京大学教養学部文科二類入学。

1953年（昭和28年）

4月 東京大学文学部国史学科進学。

1955年（昭和30年）

3月 東京大学文学部国史学科卒業。

4月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程修士課程入学。

1957年（昭和32年）

3月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻修士課程修了。

4月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻博士課程入学。

1961年（昭和36年）

3月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻博士課程を単位取得退学。

4月 東京大学史料編纂所文部事務官。

1962年（昭和37年）

4月 東京大学史料編纂所助手。

1973年（昭和48年）

4月 東京大学史料編纂所助教授。

1974年（昭和49年）

7月 東京大学百年史編集委員会委員（1987年4月1日まで）。

1979年（昭和54年）

10月 東京大学史料編纂所教授。

1980年（昭和55年）

5月 東京大学百年史本部編集委員会専門委員。

1983年（昭和58年）

4月 東京大学百年史編集委員会副委員長（1987年4月まで）。

1984年（昭和59年）

4月 東京大学大学院人文科学研究科担当。

1987年（昭和62年）

4月 東京大学大学院人文科学研究科委員会委員（1989年3月まで）。

7月 東京大学史料の保存に関する委員会委員（1989年6月まで）。

1989年（平成元年）

4月 東京大学大学院人文科学研究科委員会委員（1991年3月まで）。

7月 東京大学史料の保存に関する委員会委員（1991年6月まで）。

1991年（平成3年）

4月 東京大学史料編纂所長併任（1993年3月まで）。

4月 東京大学評議員併任（1993年3月まで）。

6月 国立歴史民俗博物館運営協議員（1993年5月まで）。

7月 東京大学史料の保存に関する委員会委員（1993年6月まで）。

1993年（平成5年）

3月 停年により東京大学を退職。

-
- 4月 国立歴史民俗博物館歴史研究部教授。
 - 4月 国立歴史民俗博物館歴史研究部長併任。
 - 5月 東京大学名誉教授。
 - 6月 国立歴史民俗博物館運営協議員（1998年3月まで）。

1998年（平成10年）

- 3月31日 停年により国立歴史民俗博物館を退職。
- 7月10日 国立歴史民俗博物館名誉教授。

このほか、大学入試センター教科専門委員会委員・入試センター教授（併任）・運営協議員を歴任する。

益田宗著作目録

I 編 著

- 〔(大日本古記録) 言経卿記〕全14冊 岩波書店 1959~1991年
〔国書総目録〕全8巻 岩波書店 1963~1972年
〔(大日本古記録) 建内記〕全10冊 岩波書店 1963~1986年
〔(日本思想大系) 新井白石〕岩波書店 1975年
〔国書総目録著者別索引〕岩波書店 1976年
〔(大日本古記録) 二水記〕全4冊 岩波書店 1989~1997年
〔日本文化総合年表〕岩波書店 1990年
〔(新日本古典文学大系) 保元物語 平治物語 承久記〕岩波書店 1992年
〔国書人名辞典〕既刊1~4巻 岩波書店 1993~1998年

II 論文等

- 〔水鏡—古活字本と整版本と—〕『国語と国文学』35巻7号 1958年
〔保暦間記の文献批判学的研究〕『日本学士院紀要』16巻3号 1958年
〔御成敗式目の復原について〕『中世の窓』1 1959年
〔水鏡—異本系諸本の成立—〕『国語と国文学』36巻9号 1959年
〔国文学的なあまりに国文学的な「兼好の通世生活とつれづれ草の成立」(安良岡康作)を評す(一)(二)〕
『中世の窓』2・3 1959年
〔承久記—回顧と展望—〕『国語と国文学』37巻4号 1960年
〔(書評) 平田俊春著「日本古典の成立の研究」を評す〕『史学雑誌』69編4号 1960年
〔1959年の歴史学界—回顧と展望—〕『史学雑誌』69編5号 1960年
〔吾妻鏡のものは吾妻鏡にかえせ—六代勝事記と吾妻鏡—〕『中世の窓』7 1960年
〔吾妻鏡のものが吾妻鏡にかえられない話〕『中世の窓』8 1961年
〔所謂「吾妻鏡断簡」について—吾妻鏡研究序説—〕『日本歴史』179号 1962年
〔欽明天皇十三年弘教渡来説の成立〕『日本古代史論集 上巻』吉川弘文館 1962年
〔歴史物語—暗中模索の素描—〕『国文学 解釈と鑑賞』28巻1号 1963年
〔(書評) 山中裕著「歴史物語成立序説」〕『史学雑誌』72編12号 1963年
〔吾妻鏡〕『日本歴史』194号 1964年
〔(書評) 岩城隆利編「元興寺編年史料 上巻」〕『史学雑誌』73編1号 1964年
〔吾妻鏡騒動記〕『新訂増補国史大系月報』1号 1964年
〔焼けてはいなかった阿波国文庫本〕『新訂増補国史大系月報』11号 1964年
〔帝王編年記あれこれ〕『新訂増補国史大系月報』35号 1965年
〔1964年の歴史学界—回顧と展望—〕『史学雑誌』74編5号 1965年
〔水鏡—雑多なあれこれ—〕『新訂増補国史大系月報』45号 1966年
〔將軍、都へ流さる〕『風俗』6巻1号 1966年
〔佐々木氏の奉公初日記と吾妻鏡〕『古事類苑月報』10号 1968年
〔金槐和歌集の柳営亜槐〕『日本歴史』244号 1968年
〔(書評) 岩橋小弥太博士頌寿記念会編「日本史籍論集上・下」〕『史学雑誌』79編4号 1970年
〔吾妻鏡の本文批判のための覚書—吾妻鏡と明月記との関係—〕『東京大学史料編纂所報』6号 1972年
〔(書評) 川瀬一馬著「日本書誌学概説 増訂版」〕『日本歴史』302号 1973年
〔(書評) 続群書類従完成会編「続群書類従(第35・36・37輯拾遺部)」〕『史学雑誌』82編9号 1973年
〔(書評) 池内義資著「御成敗式目の研究」〕『史学雑誌』83編9号 1974年
〔解題(読史余論)〕日本思想大系「新井白石」岩波書店 1975年
-

-
- 〔(書評) 大隅和雄編「太平記人名索引」〕『史学雑誌』85編8号 1976年
「吾妻鏡の伝来について」『論集中世の窓』吉川弘文館 1977年
「建内記—原本の間に貼り継がれた写二枚」『日本古文書学講座 5 中世編Ⅱ』雄山閣出版 1980年
〔(書評) 赤松俊秀著「平家物語の研究」〕『史学雑誌』90編10号 1981年
「尊卑分脈の成立と編成」『東京大学史料編纂所報』20号 1986年
「解説(中右記)」陽明叢書 記録文書篇 第7輯『中右記』四 思文閣出版 1989年
「解説(後法成寺関白記)」陽明叢書 記録文書篇 第3輯『後法成寺関白記』三 思文閣出版 1991年
「二水記について」『東京大学史料編纂所研究紀要』1号 1991年
「熊野御幸記考—定家が付けたアクセント符号—」『撰関時代と古記録』吉川弘文館 1991年
「馬を防げばあとは万全」『歴博』65 1994年
「暦に日記をつける—古記録の研究序説—」『新しい史料学を求めて』吉川弘文館 1997年